エコアクション２１

令和５年度

（令和５年１月～令和５年 12 月）

環境経営レポート

１．事業活動概要

２．環境経営方針

３．環境目標

４．主要な環境経営計画の内容

５．環境目標の実績・環境経営の取組結果の評価及び次年度の取り組み内容

６．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

７．代表者による全体評価と見直し

発行日：令和６年１月 26 日

株式会社　真　田

https://www.sanadabottle.com/

１． 事業活動概要

【事業所名称及び代表者名】
株式会社　真　田
代表取締役　眞田 明男

【認証・登録範囲】
対象事業所：株式会社真田 本社・宇都宮支店・船橋営業所
対象事業活動：硝子壜のリユース事業及び再資源化事業、缶・ペットボトルの再資源化事業
認証登録番号：0004039
認証登録日：2009 年 8 月 12 日

【法人設立年月日】
昭和 46 年 1 月 22 日

【資本金】
10,000,000 円

【担当者及び連絡先】
本社（東京都葛飾区東新小岩 4-20-8）
担当者：松永 秀雄
連絡先：電　話 03-3696-1701
　　：ＦＡＸ 03-3694-4715

宇都宮支店（栃木県宇都宮市若松原 2-7-1）
担当者：関山 美穂
連絡先：電　話 028-653-0916
　　：ＦＡＸ 028-653-4971

船橋営業所（千葉県船橋市高根町 2054-3）
担当者：レ ヴァン ヒエウ
連絡先：電　話 047-430-1640
　　：ＦＡＸ 047-430-1640

【対象範囲】
全組織・全活動対象

【事業内容】
・新壜の販売・旧壜の利用再生事業
・廃棄物再生事業
・一般貨物自動車運送事業

廃棄物再生事業者登録（内容：空き壜の再生事業）		
登録証明書	登録番号	登録年月日
東京都	第 92 号	平成 6 年 11 月 6 日

産業廃棄物収集運搬業許可 （内容：廃プラ類、紙くず、木くず、金属くず、ガラス、コンクリート、陶磁器くず）		
都道府県名	許可番号	許可年月日
東京都	第 01300189244 号	令和 3 年 7 月 15 日
千葉県	第 01200189244 号	令和 3 年 9 月 27 日
埼玉県	第 01100189244 号	平成 29 年 4 月 28 日
神奈川県	第 01400189244 号	平成 29 年 5 月 25 日
栃木県	第 00900189244 号	令和 2 年 8 月 17 日

宇都宮市資源回収指定登録（内容：びん）		
登録証明書	登録番号	登録年月日
宇都宮市	C020	平成 23 年 11 月 7 日

一般貨物自動車運送業（内容：一般廃棄物の運送）		
許可書	事業者番号	登録年月日
関東運輸局	460006346	平成 16 年 3 月 31 日

【事業の規模】

活動規模	単　位	令和５年度
びん処理量	t	1,517
売上高	百万円	477
生きびん扱い量	本(1.8ℓ壜換算)	3,128,351
総床面積	㎡	4,933
従業員数 本社	人	40
従業員数 宇都宮支店	人	4
従業員数 船橋営業所	人	2

【車輌保有台数　本社】

種　類	台　数
軽トラック	5
２ｔトラック 内(天然ガス車) 内(ハイブリッド車)	18 (3) (4)
塵芥車	4
３ｔトラック 内(天然ガス車)	3 (1)
４ｔトラック	4
大型トラック	1
フォークリフト	3

【車輌保有台数　宇都宮支店】

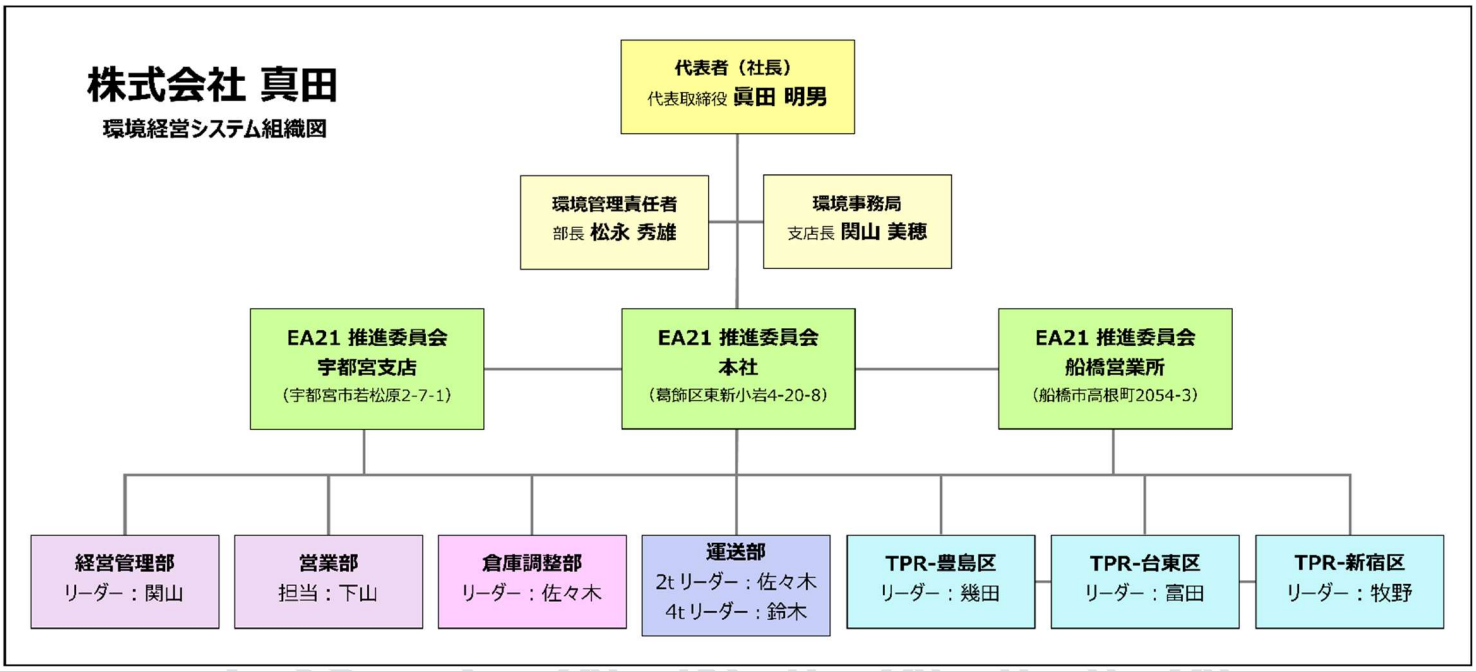
種　類	台　数
２ｔトラック	1
４ｔトラック	1
フォークリフト	2

【車輌保有台数　船橋営業所】

種　類	台　数
フォークリフト	4

【組織図】

2008/10/3 作成
2023/4/1 改定



【役割・責任・権限】

●代表者（社長）

- 環境経営に関する統括責任
- 環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間、技能、技術者を用意
- 環境管理責任者を任命
- 環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知
- 環境目標・活動計画書を承認
- 代表者による全体の評価と見直しを実施
- 環境経営レポートの承認
- 経営における課題とチャンスの明確化

●環境管理責任者

- 環境経営システムの構築、実施、管理
- 環境関連法等の取りまとめ表を承認
- 環境目標・活動計画書を実施
- 環境経営の取組結果を代表者へ報告
- 環境レポートの承認

●環境事務局

・ 環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局
・ 環境への付加の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
・「環境関連法規等の取りまとめ表」の作成
・「環境関連法規等の取りまとめ表」に基づく順守評価の実施
・ 環境目標・環境経営計画書の原案の作成
・ 環境経営の実績集計
・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
・ 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）

●部門長

・ 自部門における環境経営システムの実施
・ 自部門における環境方針の周知
・ 自部門の従業員に対する教育訓練の実施
・ 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告
・ 特定された項目の手順書作成及び運用管理
・ 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録
・ 自部門の問題点の発見、是正、予防処置

SANADA

●全従業員

・ 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
・ 資源リサイクル業という認識を持ち環境経営へのより積極的な参加

２． 環境経営方針

『環境経営方針』

※基本理念

株式会社真田は、リターナブル壜容器の販売、廃棄物再生事業、トラック運送事業と環境保全との調和を目指し、事業活動が地域社会環境及び地球環境に及ぼす影響に配慮するとともに、あらゆる環境負荷の低減及び資源の有効活用に努めます。

※基本行動方針

1. 全社を挙げて環境保全活動に取り組みます。
2. 環境保全対策を推進する体制を整備します。
3. リターナブル壜容器の販売を促進し温暖化の原因とされる温室効果ガス CO_2 の削減に努めます。
4. エコドライブ推進計画を策定し、重点目標として達成するよう取り組みます。
5. 各種法律を遵守するほか、環境保全にかかわるその他ルールを守ります。
6. 環境に関する知識の普及・啓発を図ります。
7. 環境経営の継続的改善に努めます。
8. 環境経営方針は全従業員に周知します。

制定　平成 20 年 1 月 1 日
改定　令和元年 10 月 1 日
東京都葛飾区東新小岩 4 丁 20 番 8 号
株式会社　真　田
代表取締役　眞田　明男

３．環境目標

１）　環境目標

以下の目標を揚げ環境経営に取り組んだ。

① 温室効果ガス(CO_2)の排出量の削減：1%減

② リターナブル壜容器の販売促進：1%増

③ 再資源化の向上：1%増

④ 廃棄物の削減：1%減

⑤ 水資源の削減：

生活用水による使用のみの為（洗車使用は少量の為、計量はしていない）削減目標に掲げないが節水に従業員一同取り組んでゆく。

⑥ グリーン購入：事務用品のグリーン購入を推進する。

⑦ 化学物質：使用無しの為、目標設定しない。

２）　基準値及び環境目標

2023 年の目標は 2022 年実績を基準値とし、そこに１%増または１%減で設定。
2024～2026 年の目標はそれぞれ前年度実績の１%増または１%減で設定した。

本社　　電力会社名：東京電力エナジーパートナー　調整後の排出係数：0.451(kg-CO2/kWh)　令和３年度実績

環境目標		単位	活動計画基準値	2023 年目標	2024 年目標	2025 年目標	2026 年目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	66,364	65,700（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	燃料削減(天然ガス)	m^3	8,502	8,417（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	燃料削減(ガソリン)	L	1,951	1,932（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	電気使用量の削減	kwh	11,072	10,961（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	二酸化炭素排出量	t-CO_2	199.9	197.9（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
再資源化物	再資源化物の向上（ガラス壜）	t	828.7	837.0（＋1%）	2023 年実績の＋1%	2024 年実績の＋1%	2025 年実績の＋1%
	リターナブル容器の販売促進(1.8ℓ壜)	本	2,681,893	2,708,712（＋1%）	2023 年実績の＋1%	2024 年実績の＋1%	2025 年実績の＋1%
廃棄物	廃棄物を削減する	t	0.09	0.089（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%

宇都宮支店電力会社名：東京電力エナジーパートナー　調整後の排出係数：0.451(kg-CO2/kWh)　令和３年度実績

環境目標		単位	活動計画基準値	2023年目標	2024年目標	2025年目標	2026年目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	5,996	5,936 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
	燃料削減(ガソリン)	L	0	0 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
	燃料削減(LPG)	Kg	845	837 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
	電気使用量の削減	kwh	4,030	3,990 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
	二酸化炭素排出量	t-CO_2	19.9	19.7 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
再資源化物	再資源化物の向上(ガラス壜)	t	123.2	124.5 (＋1%)	2023年実績の＋1%	2024年実績の＋1%	2025年実績の＋1%
	リターナブル容器の販売促進(1.8ℓ壜)	本	531,047	536,357 (＋1%)	2023年実績の＋1%	2024年実績の＋1%	2025年実績の＋1%

船橋営業所電力会社名：東京電力エナジーパートナー　調整後の排出係数：0.451(kg-CO2/kWh)　令和３年度実績

環境目標		単位	活動計画基準値	2023年目標	2024年目標	2025年目標	2026年目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	1,173	1,161 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
	燃料削減(ガソリン)	L	0	0 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
	燃料削減(LPG)	Kg	1,998	1,978 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
	電気使用量の削減	kwh	3,816	3,778 (－1%)	2023年実績の＋1%	2024年実績の±0%	2025年実績の±0%
	二酸化炭素排出量	t-CO_2	10.94	10.83 (－1%)	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%
再資源	再資源化物の向上(ガラス壜)	t	0	0 (＋1%)	2023年実績の＋1%	2024年実績の＋1%	2025年実績の＋1%
廃棄物	廃棄物を削減する	t	0.00	0.00	2023年実績の－1%	2024年実績の－1%	2025年実績の－1%

全社（本社・宇都宮支店・船橋営業所）

環境目標		単位	活動計画基準値	2023 年目標	2024 年目標	2025 年目標	2026 年目標
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	73,533	72,798（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	燃料削減(天然ガス)	m^3	8,502	8,417（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	燃料削減(ガソリン)	L	1,951	1,932（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	燃料削減(LPG)	L	2,843	2,815（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	電気使用量の削減	kwh	18,918	18,729（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
	二酸化炭素排出量	$t\text{-}CO_2$	230.7	228.4（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%
再資源化物	再資源化物の向上（ガラス壜）	t	952.0	961.5（＋1%）	2023 年実績の＋1%	2024 年実績の＋1%	2025 年実績の＋1%
	リターナブル容器の販売促進(1.8ℓ壜)	本	3,212,940	3,245,069（＋1%）	2023 年実績の＋1%	2024 年実績の＋1%	2025 年実績の＋1%
廃棄物	廃棄物を削減する	t	0.09	0.089（−1%）	2023 年実績の−1%	2024 年実績の−1%	2025 年実績の−1%

電力会社名：東京電力エナジーパートナー

調整後の排出係数：0.451（kg-CO2/kWh）　令和3年度実績

※廃棄物は産業廃棄物のみで、内訳はもっぱら物のカレットや有価の金属で100%再資源化しています

４．主要な環境経営計画の内容

１）　温室効果ガス(CO_2)の排出量の削減

１．エコドライブの推進

①　アイドリングストップの実施

②　経済速度での走行

③　車輌の点検整備の実施

２．電気使用量の削減

①　事務所・倉庫での不要な電気の消灯

②　エアコンの設定温度の管理（夏季 28 度/冬季 20 度）

２）　再資源化の向上

１．再資源化の向上

①　リサイクルによって排出される残渣を最小化に努めます

２．リターナブル壜容器の販売の促進

①　リユース可能な容器の販売の促進

②　リターナブル壜を安心して利用して頂ける品質の管理

３）　廃棄物の削減

①　梱包の簡素化

②　事務所より排出される廃棄物の抑制

４）　グリーン購入の推進

①　事務用品のグリーン購入推進

５）　水資源の削減

①　節水に取り組んでゆく

５．環境目標の実績　環境経営の取組結果の評価及び次年度の取り組み内容

本社

環境目標		単位	2023 年 目標	2023 年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	65,700	66,568	×
	燃料削減 (天然ガス)	m^3	8,417	11,538	×
	燃料削減 (ガソリン)	L	1,932	3,150	×
	電気使用量の削減	kwh	10,961	9,873	○
	二酸化炭素排出量	$t\text{-}CO_2$	197.9	209.2	×
再資源化物	再資源化物の向上 (ガラス壜)	t	837.0	822.7	×
	リターナブル容器の 販売促進(1.8ℓ壜)	本	2,708,712	2,629,097	×
廃棄物	廃棄物を削減する	t	0.09	0.43	×

電力会社名：東京電力エナジーパートナー

調整後の排出係数：0.451（kg-CO2/kWh）　令和3年度実績

※廃棄物は産業廃棄物のみで、内訳はもっぱら物のカレットや有価の金属で100%再資源化しています

宇都宮支店電力会社名：東京電力エナジーパートナー　調整後の排出係数：0.451(kg-CO2/kWh)　令和３年度実績

環境目標		単位	2023 年 目標	2023 年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	5,936	8,071	×
	燃料削減 (ガソリン)	L	0	0	△
	燃料削減(LPG)	Kg	837	1,140	×
	電気使用量の削減	kwh	3,990	3,799	○
	二酸化炭素排出量	t-CO_2	19.7	26.0	×
再資源化物	再資源化物の向上 (ガラス壜)	t	124.5	128.0	○
	リターナブル容器の 販売促進(1.8ℓ壜)	本	536,357	499,254	×

船橋営業所電力会社名：東京電力エナジーパートナー　調整後の排出係数：0.451(kg-CO2/kWh)　令和３年度実績

環境目標		単位	2023 年 目標	2023 年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	1,161	1,765	×
	燃料削減 (ガソリン)	L	0	0	△
	燃料削減(LPG)	Kg	1,978	2,003	×
	電気使用量の削減	kwh	3,778	3,170	○
	二酸化炭素排出量	t-CO_2	10.8	12.3	×
再資源	再資源化物の向上 (ガラス壜)	t	0	0	△
廃棄物	廃棄物を削減する	t	0.00	0.00	△

全社（本社・宇都宮支店・船橋営業所）

環境目標		単位	2023 年 目標	2023 年 実績	達成 区分
二酸化炭素	燃料削減(軽油)	L	72,798	76,404	×
	燃料削減 (天然ガス)	m^3	8,417	11,538	×
	燃料削減 (ガソリン)	L	1,932	3,150	×
	燃料削減(LPG)	L	2,815	3,143	×
	電気使用量の削減	kwh	18,729	16,842	○
	二酸化炭素排出量	$t\text{-}CO_2$	228.4	247.5	×
再資源化物	再資源化物の向上 (ガラス壜)	t	961.5	950.7	×
	リターナブル容器の 販売促進(1.8ℓ壜)	本	3,245,069	3,128,351	×
廃棄物	廃棄物を削減する	t	0.09	0.59	×

電力会社名：東京電力エナジーパートナー

調整後の排出係数：0.451（kg-CO2/kWh）　令和3年度実績

※廃棄物は産業廃棄物のみで、内訳はもっぱら物のカレットや有価の金属で100％再資源化しています

５－１）－１
輸送燃料削減

昨年度の目標にあげた資源回収車両の CNG 車の増車をおこなった為、使用量が増加した。回収ルートの見直しや分配を行い燃費の向上を行っている。リターナブルびんは事業所に集荷された未洗浄の商品を洗浄工場に輸送を行っているが近隣の洗浄工場の廃業に伴い遠隔地の工場な為に輸送燃料の軽油の使用量が増加した。エコ運転の講習会等を毎年開催し更なる燃費向上を行う。

平均燃費

２トン車	Km	３トン車	Km	４トン車	Km
天然ガス(Nm³)	3.9	天然ガス(Nm³)	3.6	天然ガス(m³)	—
軽油(ℓ)	5.3	軽油(ℓ)	5.5	軽油(ℓ)	5.8

次年度は輸送車両燃費 0.1（Nm³）（ℓ）を目標にする。

５－１）－２
電気使用量の削減

本社と宇都宮支店は空調装置の温度調節が結果に繋がった。また、本社は冬季はエアコン暖房から石油ストーブに変えた事も達成要因である。照明等の不用な電力使用は見られなかった。船橋営業所は洗びん工場の閉鎖に伴い一緒に外注していたコンテナの洗浄が更に増え稼動時間が増えた。

５－１）－３
CO_2 排出量の削減

昨年同様に洗びん工場の遠隔化で輸送距離の更なる増加に伴い、共に輸送燃料が増加した。テレワークを今後も推奨し出社を極限に少なくし交通機関や車両での不用意な異動は無くしてゆく。次年度はマイナス 1%を目標とする。

５－２）－１
再資源化の向上

顧客に対し壜の色や種類、異物混入等が無い様に分別の徹底をお願いし品質の向上に努め、リサイクル率を高めた。次年度も 1%増の達成を目指す。

５－２）－２
リターナブル壜容器の販売促進

コロナ禍の影響と大手製びん工場の閉鎖の影響が未だに尾を引いており業界内での需要と供給のバランスが改善されていない。まだ、安定迄にかなりの期間が掛かる事が予想される。行政の資源処理施設で破砕されている施設への営業を行い 1 本でも多くリユースのルートに載せてゆく。来年度もプラス 1%を目標にする。

５－３）
廃棄物の削減

資源回収時に混合して排出される一般廃棄物から出る残差が非常に多く、分別の徹底を行った。次年度もリサイクル可能な物を徹底的に抜き廃棄物削減に努める。

５－４）
水資源の削減

生活用水による使用のみの為、削減目標に掲げていないが次年度も手洗いやトイレ、清掃時の節水に従業員一同取り組んでゆく。

５－５）
グリーン購入の推進

目標値は設定していないが、次年度も事務用品のグリーン購入に取組んでゆく。

SANADA

６．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

環境関連法規は各項目を遵守し評価判定は全てにおいて達成している。
関連環境法規の違反訴訟はありません。また、近隣からの苦情等に早急に対応し訴訟もありません。

No	主な環境関連法規等	遵守評価結果
1-1	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律（法 12 条、法 12 条の 3）	○
1-2	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律（法 20 条の 2） ・東京都廃棄物条例（条例 140 号） ・新宿区（条例 68 条） ・台東区（第 60 条―第 63 条） ・豊島区（第 26 条―第 40 条）	○
1-3	・栃木県環境基本条例：H.8.3/28：条第 2 号（第 6 条 2～4） ・宇都宮市廃棄物の処理及び清掃に関する条例（第 1 条の 4） ・台東区廃棄物の処理及び再利用に関する規則（第 64 条） ・新宿区リサイクル及び一般廃棄物の処理に関する条例（第 16 条） ・千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要領（第 1 章 2 条 8-は） ・船橋市廃棄物の減量、資源化及び適正処理に関する条例（第 1 章第 5 条）	○
2	・貨物自動車運送事業法第 1 章（法 2 条の 2） ・貨物自動車運送事業法第 2 章（法 3 条） ・貨物自動車運送事業輸送安全規則（運輸省令第 22 号）	○
3	・騒音規制法（法 4 条）	○
4	・自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法【自動車 NOx・PM 法】（法 6 条、法 12 条）	○
5	・東京都環境確保条例（条例 54 条） ・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（条例第２８条第１項）	○
6	・容器包装リサイクル法（法 4 条）	○
7	・浄化槽法（第 3 条、第 8 条、第 9 条、第 11 条）	○

７．代表者による全体評価と見直し

当社の環境負荷の主因である車両の運行による CO2 の排出数値は資源回収車両については、回収ルートの見直しを 1 年ごとに行い今後の効率化を図る。電力使用について本社は事務所内の滞在の時間が増加したが冬季は石油ヒーターに変更を行い電力削減達成した。宇都宮支店では不要な電力の使用は見られなかったが使用量が目標値より増えてしまった。船橋営業所はコンテナ洗浄機の稼働が今後も増加が見込まれるので目標値をプラス1%に変更を行う。事務のテレワーク化の定着が安定した。今年度、事務業務のデジタル化を図りドライバーや倉庫従事者に手書きの伝票を最低限に無くしタブレットでの入力を開始し業務の一部が集計のみの作業になったが、入力ミスが多く完全にミスを無くすことが出来れば業務を手放すことが出来る。社内配布用印刷物は裏紙にての配布を行った。結果コピー用紙の使用数が 5 年前の 4 分の１まで削減できまた、今後も両面印刷や裏紙を使用し更なるコピー用紙の削減に努めてゆく。リターナブルびんの販売促進は仕入れ、洗浄、販売の走行距離の増加に伴い走行ルートの見直しを行い燃料の目標値に達成を目指す。また、SDGｓの日本の出遅れが問題になっており国連機関が発表した達成度ランキングは 21 位であり我々の業務は 12 項目にマッチしており『つくる責任つかう責任』をリターナブルびんの良さをアピールしリターナブルびんを使用して頂く事業者様や消費者の皆様に安心して使用して頂ける品質を目指してゆく。

SAMADA

企業活動を通じて、社会課題の解決に取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）17 の目標の内、下記の項目を 2024 年度も EA21 にて活動を行う

項目	関連する SDGs のゴール	SDGs 達成に向けた取り組み
ダイバーシティ & インクルージョン		CO2 排出、毎年 1%減少
コンプライアンス 遵守		リターナブル容器 1%売上増加（ペットボトルリサイクル 10%増加）
持続可能な経営		梱包の簡素化による廃棄物の削減 1%（梱包材段ボールからリサイクル容器へ移行 10%）

当社事業と環境保全との調和を目指し、事業活動が地域社会環境および地球環境に及ぼす影響に配慮すると共に、あらゆる環境負荷の低減及び資源の有効活用に努めます。